様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ５ 月 ２５ 日現在

機関番号：８３９０３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2019
課題番号：２６４６０６０８

研究課題名（和文）患者視点に基づく治療効果指標の開発：混合研究法による関節リウマチへのアプローチ

研究課題名（英文）Mixed method approach for the assessment of effective treatment for rheumatoid arthritis based on patients' perspectives

研究代表者
小嶋　雅代（Kojima, Masayo）

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター・老年学・社会科学研究センター・部長

研究者番号：３０３２６１３６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,800,000円

研究成果の概要（和文）：関節リウマチ（RA）患者を対象にアンケート調査とフォーカスグループを実施し、「患者自身の全般評価」を患者自身がどのように捉えているかを調べた。その結果、多くの患者がより具体的な評価方法を望んでいるが、主治医と対話しながら自分自身の評価の決め方を確立していくことにより、意味のある指標になりうることが示唆された。また平成28年国民生活基礎調査のデータを用い、全国患者数（82.2万人）などRAの疫学特性を明らかにした。さらに大学病院受診中のRA患者375人を調査し、RA患者は比較的若い年令でもフレイル該当者が多く、疾患活動性、身体機能、抑うつの関与が大きいことを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　本研究により、多くのRA患者は自分の状態を正しく理解したいと考え、主治医との対話を求めていることが分かった。RA患者は比較的若い世代から健康上の問題による日常生活動作への影響を受ける者が多く、75歳以上からは加齢による変化も顕著に見られるが、非RA患者に比べて大きくはないため、RA患者においては若い世代からの介護予防・フレイル予防対策の実施が重要であると考えられる。

研究成果の概要（英文）：A questionnaire survey and a focus group were conducted for patients with rheumatoid arthritis (RA) to examine how they perceive the "patient global assessment". As a result, many patients felt neccesity to have a more specific evaluation method, but it was suggested that it could be a meaningful index by establishing their own evaluation method while duscussing with their attending rheumatologists. Using the data from the 2016 Comprehensive Survey of Living Condition, the number of patients nationwide was estimated to be 822,000 (768,000-880,000). In addition, we investigated 375 RA patients who were visiting university hospitals, and found that RA patients were more likely to have frailty even at a working age, and were greatly involved in disease activity, physical function, and depression.

研究分野：疫学

キーワード：関節リウマチ　疫学調査　フォーカスグループ　患者　高齢　フレイル

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

関節リウマチ（RA）は、近年薬物治療の進歩により、炎症を劇的に抑えることが可能となった。しかし、患者自身による症状の評価が、検査値をもとにした医師の評価と一致しない例が多く、患者自身の評価をいかに解釈すべきかが臨床の現場で問題となっている。近年の医療においては患者の視点がより重視される傾向にあり、臨床研究上も患者自身による症状評価（Patient Reported Outcome, PRO）を採用した研究が増えている。2011 年に米国／欧州リウマチ学会（ACR/EULAR)が定めた関節リウマチ（RA）寛解基準には、臨床所見、検査値に加え、患者自身の全般評価（PtGA）が含まれているが、その他の条件が基準を満たしても PtGA のみが高い例が多いことから、PtGA の妥当性が議論となっている。また、PtGA の評価方法は国際的にも標準化されておらず、医師の判断に任されている。

２．研究の目的

本研究の目的は、フォーカスグループによる質的アプローチと患者コホートを用いた疫学的アプローチにより、今の日本の RA 治療の現場において、PtGA はどのように評価され、どの程度治療上の意思決定に反映されているのか。わが国の現状に適した PRO の評価方法および患者視点の RA 治療の在り方を探索することである。

３．研究の方法

研究①：平成 28 年 5 月 18 日、愛知県内の医療機関に勤務する認定リウマチ専門医・指導医 41 名の協力を受け、758 人の 20-79 歳の関節リウマチ患者に自記式調査用紙、返信用封筒と共にフォーカスグループの案内文を送付した。7 月 18 日までに 449 通の返送があり、94 名の参加希望者があった。日程調整の結果、4 日間で 38 名（女性 34 名、男性 4 名、平均年齢 56.1±10.9 歳、罹病歴 9.39±9.36 年）が参加し、90 分のフォーカスグループを 4 回開催した。音声データをテキスト化し、SCAT を用いて質的分析を行った。

研究②：統計法第 33 条に基づき，厚生労働省より平成 28 年国民生活基礎調査のデータ提供を受けた．解析対象は，健康票が回収できた 224,208 世帯，565,133 人のうち，年齢不明者 672 人を除く，男性 272,558 人，女性 295,196 人とした．「現在，傷病で病院や診療所，あんま・はり・きゅう・柔道整復師に通っている」と回答し，傷病名として「関節リウマチ」を選択したものを「RA 患者」と定義した．「現在、健康上の問題で日常生活に何か影響がありますか」という問いに「ある」と回答し、さらに「それはどのようなことに影響がありますか」との問いに対し、「日常生活動作（起床、衣服着脱、食事、入浴など)」を選択した人の割合を、性、年代別（16－49 歳、50－64 歳、65－74 歳、75 歳以上）に比較した。

研究③：大学病院受診中の RA 患者 444 名から協力同意を得て、コホート研究のデータベース構築を行った。385 名から心理社会的要因を含むアンケート調査と臨床データを収集し、臨床効果評価指標の探索を行った。基本チェックリスト 25 点満点中、8 点以上をフレイルと定義した。

４．研究成果

研究①：PtGA をどのように評価するべきか、患者自身も戸惑っている現状が明らかになった。「患者自身の全般評価」について、多くの患者がより具体的な評価を望んでいるが、１つの指標で「リウマチの具合」を表現することは簡便で自己管理に役立つと

考えられ、主治医と対話しながら自分自身の全般評価の決め方を確立していくことにより、意味のある指標になりうることが示唆された。

研究②：全体で男性 947 人、女性 2,911 人の RA 患者が特定された。

RA 受療率は男女とも年齢と共に上がり、特に女性では 50 代後半、男性では 60 代に大きな受療率の増加が見られ、好発年齢であることが示唆された。推計患者数は全体で 82.2 万人（同 76.8 万-88.0 万人）、受療率は 0.75%（95%信頼区間 0.70-0.80）と推計され、全体の 7 割近くを 65 歳以上の高齢者が占めることが示された。

いずれの年代でも RA 患者は非 RA 患者に比べ、健康上の問題により日常生活動作に影響を感じている人の割合が高かった。ロジスティック回帰分析を用いて、RA 罹患の有無、年齢（連続量）、性差を調整したオッズ比を算出したところ、年齢と RA 罹患との間に有意な交互作用が見られ、健康上の問題による日常生活動作の影響の有無に対する RA の関与は年代が高くなるほど縮小し、逆に年齢の関与は拡大していた。

研究③：自己申告による介護状況とフレイルについて評価可能であった 375 人（女性 323 人、平均年齢 65.2±9.7 歳、平均罹病年数 16.6±11.9 年）について分析したところ、全体のフレイル該当者割合は 26.1%であり、多重ロジスティック回帰分析により、年齢、疾患活動性、身体機能障害度、抑うつ度（BDI-Ⅱ）が有意な関連要因として示された。全体の 7.8%が何らかの介護・介助を受けており、7.0%は必要だが受けていないと回答した。介護・介助を受けている者は、必要だが受けていないと回答した者に比べ、罹病期間が長く、生活機能障害（HAQ_DI）の程度が高かったが、年齢およびフレイル該当者割合には差がなかった（62.1%vs 69.2%）。介護・介助を受けている者を除外して多重ロジスティック回帰分析を行ったところ、性、年齢、罹病期間、疾患活動性（DAS-28）を補正しても、フレイルは介護・介助の必要性と強く関連していた（OR, 95% CI = 7.4, 2.9-18.9）。

RA 患者は今後益々高齢患者の増加が予測され、発症後早期からフレイル予防を意識し、心理面を含む包括的な支援が必要と考えられる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計14件（うち査読付論文　10件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 Kojima Masayo、Nakayama Takeo、Tsutani Kiichiro、Igarashi Ataru、Kojima Toshihisa、Suzuki Sadao、Miyasaka Nobuyuki、Yamanaka Hisashi	４．巻 -
２．論文標題 Epidemiological characteristics of rheumatoid arthritis in Japan: Prevalence estimates using a nationwide population-based questionnaire survey	５．発行年 2019年
３．雑誌名 Modern Rheumatology	６．最初と最後の頁 1～7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/14397595.2019.1682776	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Ebara Takeshi、Yamada Yasuyuki、Shoji Naoto、Ito Yuki、Nakagawa Atsuko、Miyachi Taishi、Ozaki Yasuhiko、Omori Toyonori、Suzuki Sadao、Kojima Masayo、Ueyama Jun、Tomizawa Motohiro、Kato Sayaka、Oguri Tomoko、Matsuki Taro、Sato Hirotaka、Oya Naoko、Sugiura-Ogasawara Mayumi、Saitoh Shinji、Kamijima Michihiro	４．巻 9
２．論文標題 Cohort profile: Aichi regional sub-cohort of the Japan Environment and Children’s Study (JECS-A)	５．発行年 2019年
３．雑誌名 BMJ Open	６．最初と最後の頁 e028105～e028105
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1136/bmjopen-2018-028105	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Kaneko Yuko、Kawahito Yutaka、Kojima Masayo、Nakayama Takeo、Hirata Shintaro、Kishimoto Mitsumasa、Endo Hirahito、Seto Yohei、Ito Hiromu、Nishida Keiichiro、Matsushita Isao、Kojima Toshihisa、Kamatani Naoyuki、Tsutani Kiichiro、Igarashi Ataru、Hasegawa Mieko、Miyasaka Nobuyuki、Yamanaka Hisashi	４．巻 -
２．論文標題 Efficacy and safety of tacrolimus in patients with rheumatoid arthritis ? A systematic review and meta-analysis	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Modern Rheumatology	６．最初と最後の頁 1～9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/14397595.2020.1719607	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Kojima Toshihisa、Ishikawa Hajime、Tanaka Sakae、Haga Nobuhiko、Nishida Keiichiro、Yukioka Masao、Hashimoto Jun、Miyahara Hisaaki、Niki Yasuo、Kimura Tomoatsu、Oda Hiromi、Asai Shuji、Funahashi Koji、Kojima Masayo、Ishiguro Naoki	４．巻 21
２．論文標題 Target setting for lower limb joint surgery using the Timed Up and Go test in patients with rheumatoid arthritis: A prospective cohort study	５．発行年 2018年
３．雑誌名 International Journal of Rheumatic Diseases	６．最初と最後の頁 1801～1808
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/1756-185X.13394	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Ishikawa Hajime、Abe Asami、Kojima Toshihisa、Kojima Masayo、Ishiguro Naoki、Nomura Yumi、Otani Hiroshi、Hasegawa Eriko、Kobayashi Daisuke、Ito Satoshi、Nakazono Kiyoshi、Murasawa Akira	4．巻 29
2．論文標題 Overall benefits provided by orthopedic surgical intervention in patients with rheumatoid arthritis	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Modern Rheumatology	6．最初と最後の頁 335～343
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/14397595.2018.1457468	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小嶋雅代，小嶋俊久	4．巻 60
2．論文標題 RA治療で求められる患者立脚型評価	5．発行年 2018年
3．雑誌名 リウマチ科.	6．最初と最後の頁 452~456
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kojima Toshihisa、Ishikawa Hajime、Tanaka Sakae、Haga Nobuhiko、Nishida Keiichiro、Yukioka Masao、Hashimoto Jun、Miyahara Hisaaki、Niki Yasuo、Kimura Tomoatsu、Oda Hiromi、Asai Shuji、Funahashi Koji、Kojima Masayo、Ishiguro Naoki	4．巻 -
2．論文標題 Validation and reliability of the Timed Up and Go test for measuring objective functional impairment in patients with long-standing rheumatoid arthritis: a cross-sectional study	5．発行年 2017年
3．雑誌名 International Journal of Rheumatic Diseases	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/1756-185X.13237	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kojima Toshihisa、Ishikawa Hajime、Tanaka Sakae、Haga Nobuhiko、Nishida Keiichiro、Yukioka Masao、Hashimoto Jun、Miyahara Hisaaki、Niki Yasuo、Kimura Tomoatsu、Oda Hiromi、Asai Shuji、Funahashi Koji、Kojima Masayo、Ishiguro Naoki	4．巻 28
2．論文標題 Characteristics of functional impairment in patients with long-standing rheumatoid arthritis based on range of motion of joints: Baseline data from a multicenter prospective observational cohort study to evaluate the effectiveness of joint surgery in the treat-to-target era	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Modern Rheumatology	6．最初と最後の頁 474～481
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/14397595.2017.1349593	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kojima Masayo、Nakayama Takeo、Otani Takashi、Hasegawa Mieko、Kawahito Yutaka、Kaneko Yuko、Kishimoto Mitsumasa、Hirata Shintaro、Seto Yohei、Endo Hirahito、Ito Hiromu、Kojima Toshihisa、Nishida Keiichiro、Matsushita Isao、Tsutani Kiichiro、Igarashi Ataru、Kamatani Naoyuki、Miyasaka Nobuyuki、Yamanaka Hisashi	4．巻 27
2．論文標題 Integrating patients’ perceptions into clinical practice guidelines for the management of rheumatoid arthritis in Japan	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Modern Rheumatology	6．最初と最後の頁 924～929
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/14397595.2016.1276511	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kojima T, Takahashi N, Funahashi K, Asai S, Terabe K, Kaneko A, Hirano Y, Hayashi M, Miyake H, Oguchi T, Takagi H, Kanayama Y, Yabe Y, Watanabe T, Fujibayashi T, Shioura T, Ito T, Yoshioka Y, Ishikawa H, Asai N, Takemoto T, Kojima M, Ishiguro N.	4．巻 35
2．論文標題 Improved safety of biologic therapy for rheumatoid arthritis over the 8-year period since implementation in Japan: long-term results from a multicenter observational cohort study.	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Clin Rheumatol.	6．最初と最後の頁 863-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s10067-016-3201-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kojima Masayo、Kojima Toshihisa、Suzuki Sadao、Takahashi Nobunori、Funahashi Koji、Asai Shuji、Yoshioka Yutaka、Terabe Kenya、Asai Nobuyuki、Takemoto Toki、Ishiguro Naoki	4．巻 20
2．論文標題 Patient-reported outcomes as assessment tools and predictors of long-term prognosis: a 7-year follow-up study of patients with rheumatoid arthritis	5．発行年 2015年
3．雑誌名 International Journal of Rheumatic Diseases	6．最初と最後の頁 1193～1200
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/1756-185X.12789	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kojima M, Nakayama T, Kawahito Y, Kaneko Y, Kishimoto M, Hirata S, Seto Y, Endo H, Ito H, Kojima T, Nishida K, Matsushita I, Tsutani K, Igarashi A, Kamatani N, Hasegawa M, Miyasaka N, Yamanaka H.	4．巻 26
2．論文標題 The process of collecting and evaluating evidences for the development of Guidelines for the management of rheumatoid arthritis, Japan College of Rheumatology 2014: Utilization of GRADE approach.	5．発行年 2015年
3．雑誌名 Modern Rheumatology	6．最初と最後の頁 175-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3109/14397595.2015	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Ito H, Kojima M, Nishida K, Matsushita I, Kojima T, Nakayama T, Endo H, Hirata S, Kaneko Y, Kawahito Y, Kishimoto M, Seto Y, Kamatani N, Tsutani K, Igarashi A, Hasegawa M, Miyasaka N, Yamanaka H.	4．巻 25
2．論文標題 Postoperative complications in patients with rheumatoid arthritis using a biological agent - A systematic review and meta-analysis.	5．発行年 2015年
3．雑誌名 Modern Rheumatology	6．最初と最後の頁 672-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3109/14397595.2015.1014302	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kojima T, Yabe Y, Kaneko A, Takahashi N, Funahashi K, Kato D, Hanabayashi M, Asai S, Hirabara S, Asai N, Hirano Y, Hayashi M, Miyake H, Kojima M, Ishiguro N.	4．巻 54
2．論文標題 Importance of methotrexate therapy concomitant with tocilizumab treatment in achieving better clinical outcomes for rheumatoid arthritis patients with high disease activity: an observational cohort study.	5．発行年 2015年
3．雑誌名 Rheumatology	6．最初と最後の頁 113-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1093/rheumatology/keu302	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計33件（うち招待講演　4件／うち国際学会　3件）

1．発表者名 Kojima,M Kojima,T Nagaya,Y Matsui,Y.
2．発表標題 Prevalence of frailty and its associated factors in patients with rheumatoid arthritis in Japan.
3．学会等名 International Conference on Frailty & Sarcopenia Research 2020,（国際学会）
4．発表年 2020年

1．発表者名 小嶋雅代
2．発表標題 高齢関節リウマチ患者の疫学．シンポジウム；チームで考える－高齢RA患者の日常診療下のリスク評価と対策－
3．学会等名 第34回日本臨床リウマチ学会（招待講演）
4．発表年 2019年

１．発表者名 小嶋雅代，中山健夫，鈴木貞夫
２．発表標題 加齢に伴う関節リウマチの日常生活動作への影響に関する検討
３．学会等名 第78回日本公衆衛生学会総会
４．発表年 2019年

１．発表者名 小嶋雅代，
２．発表標題 関節リウマチとフレイル・サルコペニア・ロコモティブシンドロームとの関連について
３．学会等名 第6回日本サルコペニア・フレイル学会大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 小嶋雅代，永谷祐子，高橋伸典， 浅井秀司，祖父江康司，西梅剛，鈴木望人，野崎正浩，三井裕人，川口洋平，黒柳元，小嶋俊久
２．発表標題 高齢関節リウマチ患者の「健康とくらしの調査」
３．学会等名 第34回日本臨床リウマチ学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 小嶋雅代，小嶋俊久，永谷祐子，松井康素，渡邉美貴，鈴木貞夫，野口泰司，村田千代栄，斎藤民，尾島俊之，近藤克則
２．発表標題 関節リウマチ患者におけるフレイルの背景要因に関する検討
３．学会等名 第30回日本疫学会学術総会
４．発表年 2020年

１．発表者名 野口泰司，村田千代栄，斎藤民，斎藤雅茂，林尊弘，渡邉良太，小嶋雅代，近藤克則
２．発表標題 地域のソーシャル・キャピタルとフレイル発生との関連：JAGES縦断研究
３．学会等名 第30回日本疫学会学術総会
４．発表年 2020年

１．発表者名 小嶋雅代，小嶋俊久
２．発表標題 リウマチ患者は疾患活動性の全般評価をどのように判断しているか
３．学会等名 第62回日本リウマチ学会総会・学術集会
４．発表年 2018年

１．発表者名 小嶋 俊久，石川 肇，田中 栄，芳賀 信彦，西田 圭一郎，行岡 正雄，橋本 淳，宮原 寿明，二木 康夫，木村 友厚，織田 弘美，小嶋雅代，石黒 直樹
２．発表標題 関節リウマチの治療評価と予測 多関節障害RA患者の下肢機能評価　動作速度Time Up to GoのValidation
３．学会等名 第62回日本リウマチ学会総会・学術集会
４．発表年 2018年

１．発表者名 小嶋 俊久，石川 肇，田中 栄，芳賀 信彦，西田 圭一郎，行岡 正雄，橋本 淳，宮原 寿明，二木 康夫，木村 友厚，織田 弘美，舟橋 康治，浅井 秀司，小嶋雅代，石黒 直樹
２．発表標題 関節リウマチの治療評価と予測2 関節リウマチ下肢手術療法のための数値目標　動作速度Timed Up and Goの目標値の検討
３．学会等名 第62回日本リウマチ学会総会・学術集会
４．発表年 2018年

１．発表者名 小嶋 俊久，石川 肇，田中 栄，芳賀 信彦，西田 圭一郎，行岡 正雄，橋本 淳，宮原 寿明，二木 康夫，木村 友厚，織田 弘美，舟橋 康治，浅井 秀司，小嶋雅代,石黒 直樹
２．発表標題 関節リウマチの手術3下肢3 現在の薬物治療下における関節リウマチ下肢手術の治療効果評価　動作速度Timed Up and Go、患者主観評価の意義
３．学会等名 第62回日本リウマチ学会総会・学術集会
４．発表年 2018年

１．発表者名 中村里香，肥田武，小嶋雅代，末松三奈，安井浩樹，植村和正，岡崎研太郎，高橋徳幸，小嶋俊久
２．発表標題 リウマチ寛解基準へのPGA導入過渡期の患者の類型化
３．学会等名 第62回日本リウマチ学会総会・学術集会
４．発表年 2018年

１．発表者名 小嶋雅代
２．発表標題 医療系学生による高齢者家庭訪問実習：3年目における意義の検証
３．学会等名 第50回日本医学教育学会大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 小嶋雅代，中山健夫，鈴木貞夫
２．発表標題 平成28年度国民生活基礎調査に基づくわが国の関節リウマチ患者の疫学像
３．学会等名 第77回日本公衆衛生学会総会
４．発表年 2018年

１．発表者名 小嶋雅代，中山健夫，鈴木貞夫
２．発表標題 平成28年国民生活基礎調査からみたわが国の関節リウマチ患者の現状
３．学会等名 第28回日本疫学会学術総会
４．発表年 2018年

１．発表者名 小嶋　雅代
２．発表標題 関節リウマチ診療における患者立脚型評価 RA治療で求められる患者立脚型評価とは
３．学会等名 第61回日本リウマチ学会総会・学術集会
４．発表年 2017年

１．発表者名 小嶋 雅代，小嶋 俊久，石黒 直樹
２．発表標題 関節リウマチ患者の「情報交換の場」に関するアンケート調査
３．学会等名 第61回日本リウマチ学会総会・学術集会
４．発表年 2017年

１．発表者名 山中 寿，伊藤 宣，遠藤 平仁，金子 祐子，川人 豊，岸本 暢将，小嶋 俊久，小嶋 雅代，瀬戸 洋平，中山 健夫，西田 圭一郎，平田 信太郎，松下 功，宮坂 信之
２．発表標題 膠原病・リウマチ性疾患の診療ガイドライン 関節リウマチ診療ガイドライン　JCR2014に基づく一般医向け診療ガイドラインの作成
３．学会等名 第61回日本リウマチ学会総会・学術集会
４．発表年 2017年

１．発表者名 中村 里香，肥田 武，小嶋 雅代，末松 三奈，大浦 智子，安井 浩樹，高橋 徳幸，阿部 恵子，岡崎 研太郎，植村 和正
２．発表標題 リウマチ寛解基準へのPGA導入過渡期の患者の類型化
３．学会等名 第49回医学教育学会大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 大浦 智子，小嶋 雅代，山中 寿，荘子 万能，西 明博，橋本 里穂，石橋 茉実，中山 健夫
２．発表標題 関節リウマチ患者と医学生の合同グループワークの経験から　患者さんの感じたこと・医学生の学んだこと
３．学会等名 第9回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会
４．発表年 2017年

１．発表者名 大浦 智子,小嶋 雅代，山中 寿，荘子 万能，西 明博，橋本 里穂，石橋 茉実，中山 健夫
２．発表標題 関節リウマチ患者と医学生の面接によって得られた「患者の声」
３．学会等名 第9回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会
４．発表年 2017年

１．発表者名 小嶋 雅代，赤津 裕康，浅井 清文，大原 弘隆，木村 和哲，酒々井 眞澄，村上 里奈，川出 義浩，鈴木 匡，坡下 真大，山本 美由紀，明石 惠子
２．発表標題 地域再生と教育　地域で展開するIPE IPW 「なごやかモデル」を通した大学教育におけるIPEの取り組み
３．学会等名 第19回日本在宅医学会大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 石川 肇，阿部 麻美，野村 優美，長谷川 絵理子，小林 大介，大谷 博，伊藤 聡，小嶋 雅代，小嶋 俊久，石黒 直樹，中園 清，村澤 章
２．発表標題 リウマチ手に対する治療戦略 リウマチ手の手術による高いレベルのQOLと心の健康のデリバリー
３．学会等名 第45回日本関節病学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 小嶋俊久，石川肇，西田圭一郎，橋本淳，田中栄，芳賀信彦，宮原寿明，二木康夫，小嶋雅代，石黒直樹.
２．発表標題 RA患者の下肢人工関節手術における動作速度Time Up to Goの数値目標としての意義.
３．学会等名 第60回日本リウマチ学会総会・学術集会
４．発表年 2016年

１．発表者名 伊藤宣，小嶋雅代，西田圭一郎，松下功，小嶋俊久，遠藤平仁，平田信太郎，金子裕子，川人豊，岸本暢将，瀬戸洋平，鎌谷直之，五十嵐中，長谷川三枝子，宮坂信之，山中寿.
２．発表標題 生物学的製剤は整形外科手術合併症を増加させるか―システマティックレビューとメタ解析―.
３．学会等名 第60回日本リウマチ学会総会・学術集会
４．発表年 2016年

１．発表者名 小嶋　雅代、小嶋　俊久、石川　肇、西田　圭一郎、橋本　淳、宮原　寿明、田中　栄、芳賀　信彦、二木　康夫、石黒　直樹
２．発表標題 多関節障害重症関節リウマチ患者の背景要因に関する疫学的検討
３．学会等名 第59回日本リウマチ学会学術集会
４．発表年 2015年

１．発表者名 Masayo Kojima, Takeo Nakayama, Mieko Hasegawa, Hiromu Ito, Hirahito Endo, Yuko Kaneko, Yutaka Kawahito, Toshihisa Kojima, Mitsumasa Kishimoto, Yohei Seto, Keiichiro Nishida, Shintaro Hirata, Isao Matsushita, Kiichiro Tsutani, Ataru Igarashi, Naoyuki Kamatani, Nobuyuki Miyasaka, and Hisashi Yamanaka
２．発表標題 A mixed method approach to capture patients’ values and preferences for rheumatoid arthritis management in Japan
３．学会等名 国際混合研究法学会アジア地域会議（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 Masayo Kojima, Takeo Nakayama, Keiko Yukawa,Kiichiro Tsutani
２．発表標題 Findings from Comprehensive Survey of Living Conditions in Japan: Use observational study in CPG development for traditional medicine
３．学会等名 The 4th International Symposium of Clinical Practive Guidelines in Traditional Medicine（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 小嶋 雅代、 中山 健夫、 津谷 喜一郎、五十嵐 中、小嶋 俊久、 鈴木 貞夫 、早野順一郎
２．発表標題 国民生活基礎調査から見た わが国における関節リウマチ患者の現状
３．学会等名 第26回日本疫学会学術大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 肥田 武，小嶋 雅代，小嶋 俊久，石黒 直樹，鈴木 貞夫
２．発表標題 リウマチ専門医による「患者自身の病状評価」の取り入れの実際　どのような場面で、どのように配慮するか
３．学会等名 東海公衆衛生学会
４．発表年 2014年

１．発表者名 小嶋　雅代
２．発表標題 リウマチ外科治療の進歩 多関節障害としてのRA外科治療　障害評価のアプローチとADL障害
３．学会等名 第58回日本リウマチ学会総会・学術集会（招待講演）
４．発表年 2014年

１．発表者名 小嶋　雅代
２．発表標題 患者自身の全般評価の測定方法に関する検証から見たRA多関節障害の評価
３．学会等名 第29回日本臨床リウマチ学会（招待講演）
４．発表年 2014年

１．発表者名 小嶋雅代、小嶋　俊久、難波　大夫、　石黒　直樹
２．発表標題 関節リウマチ患者と医師の治療目標に関するコミュニケーション調査
３．学会等名 第58回日本リウマチ学会総会・学術集会
４．発表年 2014年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

名古屋市立大学　大学院医学研究科 公衆衛生学分野 http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/kouei.dir/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	小嶋　俊久 (Kojima Toshihisa) (70378032)	名古屋大学・整形外科・准教授	
研究協力者	石黒　直樹 (Ishiguro Naoki) (20212871)	名古屋大学・整形外科・教授	